

人文社会ビジネス科学学術院  
人文社会科学研究群

学位プログラム名	課程	アドミッションポリシー	
<p>人文学 学位プログラム</p>	<p>博士前期課程</p>	<p>求める人材</p>	<p>人文学諸分野への強い関心、研究課題に真摯に取り組む情熱、研究に必要な基礎的知識、語学力、論理的思考力、論述力を持ち、研究成果を社会に還元する意欲を持つ人材を求める。</p>
		<p>入学者選抜方針</p>	<p>入学者の選抜にあたっては、一般入試、推薦入試などの入学者選抜方式によって多様な入学志願者に対応するとともに、募集人員を分割し、同一年度に複数回の入学試験を実施する。</p> <p>・一般入試では、専門科目の筆記試験、及び口述試験を実施し、総合的に判定する。専門科目は、出願時に申し出た哲学・思想、歴史・人類学、文学、言語学、現代文化学、英語教育学など人文学に関係する分野から1つを選択し、外国語(1カ国語)で書かれた専門文献を使った設問を含む出題を行い、人文学諸分野の研究に必要な基礎的知識、論理的思考力、研究しようとしている分野の専門的知識、研究に必要な語学力を判定する。口述試験は、卒業論文(ないしはそれに準ずる論文)や研究計画書等の提出書類を参考とし、志願者の基礎的研究能力、研究に対する関心・情熱・適性、研究を通して社会に貢献しようとする意欲、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。提出書類のうち、卒業論文(ないしはそれに準ずる論文)により、専門分野に関する論述力を判定する。</p> <p>・推薦入試では、小論文の筆記試験、及び口述試験を実施し、総合的に判定する。推薦入試は、学士課程等において志願者を指導し、その諸能力や性格、資質などを知悉する教員から、人文学諸分野の研究に必要な基礎的知識や論理的思考力をすでに身に付けているとして推薦された者を対象としている。このため、専門科目の筆記試験は行わず、修士論文の執筆を進められるのに十分な論理的思考力、論述力、語学力があるかどうかを判定するために、外国語(1カ国語)で書かれた専門文献を読ませ、それに基づいて論述させる小論文の筆記試験を行う。口述試験は、推薦書および研究計画書を参考とし、専門分野の基礎的知識と研究遂行能力、研究しようとしている分野の専門的知識を確認し、研究に対する関心・情熱・適性、研究を通して社会に貢献しようとする意欲に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。</p>
	<p>博士後期課程</p>	<p>求める人材</p>	<p>人文学諸分野への強い関心、研究課題に真摯に取り組む情熱、研究に必要な専門的知識、語学力、論理的思考力、論述力を持ち、専門性を追求するのみならず、自らの研究を人文学の中に位置づけ、学際的な新たな領域を開拓する意欲を持つ人材を求める。</p>
		<p>入学者選抜方針</p>	<p>入学者の選抜にあたっては、一般入試を行う。</p> <p>・一般入試では、専門科目の筆記試験、並びに口述試験を実施し、総合的に判定する。専門科目は、出願時に申し出た哲学・思想、歴史・人類学、文学、言語学、現代文化学、英語教育学など人文学に関係する分野から1つを選択し、外国語(1カ国語)で書かれた専門文献を使った設問を含む出題</p>

			<p>を行い、人文学諸分野の研究に必要な専門的知識、論理的思考力、研究しようとしている分野の専門的知識、研究に必要な語学力を判定する。口述試験は、提出された修士論文(ないしはそれに準ずる論文)や研究計画書等を参考としつつ、志願者の研究しようとしている分野の専門的知識、研究に対する関心・情熱・適性、研究を通して社会に貢献しようとする意欲に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。提出書類のうち、修士論文により、専門分野に関する論述力を判定する。</p>
<p>国際公共政策 学位プログラム</p>	<p>博士前期課程</p>	<p>求める人材</p>	<p>卒業論文の執筆やその他の学修の成果、または社会的経験を踏まえ、複雑化する現代社会や国際問題について、人間が共に生きることができるよう、継続的に理論的・実践的な研究を遂行する能力と専門的知識、またその研究への情熱、高度な知識をただ吸収するだけでなく、自らの関心から積極的に課題を発見し、専門実務へ応用できる柔軟性を持った人材を求める。</p>
		<p>入学者選抜方針</p>	<p>入学者の選抜にあたっては、一般入試、推薦入試、英語の授業のみを履修して修了することを希望する者への特別選抜などの入学者選抜方式によって多様な入学志願者に対応するとともに、募集人員を分割し、同一年度に複数回の入学試験を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試では、専門科目及び外国語の筆記試験、並びに口述試験を実施し、総合的に判定する。専門科目は、出願時に申し出た国際関係論・社会開発論・人類学・社会学・政治学・地域研究など国際公共政策に関係する分野から1つを選択して解答させ、修士論文執筆に十分な継続的研究能力、専門的知識、専門実務へ応用できる柔軟性を判定する。外国語の筆記試験は、研究・実務に必要不可欠な外国語運用能力を判定する。口述試験は、研究計画書等を参考とし、志願者の研究に対する情熱・意欲、研究しようとしている分野の専門的知識、専門実務へ応用できる柔軟性などの資質、研究計画の実現性に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。</li> <li>・推薦入試では、小論文の筆記試験、及び口述試験を実施し、総合的に判定する。推薦入試は、学士課程等において志願者を指導し、その諸能力や性格、資質などを知悉する教員から、国際公共政策研究に必要な専門的知識や継続的研究能力、外国語運用能力をすでに身に付けているとして推薦された者を対象としている。このため、専門科目や外国語の筆記試験は行わず、研究しようとしている分野の専門的知識や専門実務へ応用できる柔軟性を判定するために小論文の筆記試験を行う。口述試験は、推薦書および研究計画書を参考とし、研究計画の実現可能性、研究への情熱・意欲、研究しようとしている分野の専門的知識、研究に対する資質に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。</li> <li>・開発途上国・新興国の若手行政官や有職者など、英語の授業のみを履修して修了を希望する者に対しては特別選抜を実施する。特別選抜では、書類審査と口述試験を行い、総合的に判定する。書類審査は、研究計画書や推薦書などに基づき、研究計画の実現可能性、研究への情熱・意欲などを判定する。口述試験では、書類を参考にし、継続的研究能力、研究</li> </ul>

			しようとしている分野の専門的知識、研究に対する情熱・意欲、英語の運用能力、研究計画の実現可能性に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。
	博士後期課程	求める人材	修士論文の執筆や社会的経験を通じ、グローバル化・複雑化する世界における現代社会や国際問題について洗練された論理的思考力や専門的知識、多様な社会問題・政治情勢を把握できる感性を身に付け、また、それを基盤として、高度な専門性を実務に積極的に活用し、現代社会や国際関係の諸問題について具体的な政策提言や解決方を言語化できる高度かつ柔軟な思考力、意欲を備えた人材を求める。
		入学者選抜方針	<p>入学者の選抜にあたっては、一般入試を行う。</p> <p>・一般入試では、専門科目及び外国語の筆記試験、並びに口述試験を実施し、総合的に判定する。専門科目は、出願時に申し出た国際関係論・社会開発論・人類学・社会学・政治学・地域研究など国際公共政策に関係する分野から1つを選択して解答させ、志願者の論理的思考力、研究しようとしている分野の専門的知識、社会・政治問題に対する感性を判定する。口述試験では、修士論文と研究計画書を参考とし、高度な専門性を実務に積極的に活用する能力、社会・政治問題への政策提言を行える高度かつ柔軟な思考力、意欲、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。</p>
国際日本研究 学位プログラム	博士前期課程	求める人材	国際的・比較的な視野のもとに日本の文化・社会や日本語教育について研究し、その成果をもとに、日本や東アジアを中心に世界が抱えるさまざまな問題に主体的に取り組んでいく意欲をもつ人材を求める。前期課程ではこのような問題に対して研究者(基礎レベル)としてあるいは職業人として、正面から取り組む意欲を持つ学生や社会人から広く人材を求める。
		入学者選抜方針	<p>入学者の選抜にあたっては、一般入試、指定校推薦入試、社会人特別選抜などの入学者選抜方式によって多様な入学志願者に対応するとともに、募集人員を分割し、同一年度に複数回の入学試験を実施する。</p> <p>・一般入試では、専門科目及び外国語の筆記試験、並びに口述試験を実施し、総合的に判定する。専門科目は、国際日本研究に関する「政治」「経済」「文学・文化・思想」「法律・社会・メディア・情報」「言語」「日本語教育学」の分野から1つを解答時に選択して日本語または英語(「日本語教育学」のみ日本語)で解答させ、博士前期課程において国際日本研究を遂行しうる能力、研究しようとしている分野の専門的知識を判定する。外国語の筆記試験は、国際日本研究に必要な外国語運用能力を判定する。口述試験は、研究計画書等を参考とし、学修成果や思考力、研究に対する情熱・意欲、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力も判定する。</p> <p>・指定校推薦入試では、口述試験を実施する。指定校推薦入試は、海外協定校(ベトナム教育訓練省ホーチミン市師範大学日本語学部)において志願者の諸能力や性格、資質などを知悉する教員等から、国際日本研究を遂行しうる能力をすでに身に付けているとして推薦された者を対象としている。このため、専門科目や外国語の筆記試験は行わず、口述試験により、</p>

			<p>国際日本研究に正面から取り組む意欲、研究計画、協定校における学修や本学位プログラムを志望する理由、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。</p> <p>・社会人特別選抜では、専門科目の筆記試験及び口述試験を実施する。社会人特別選抜は、社会人としての経験を有している者を対象としている。専門科目は、国際日本研究に関係する「政治」「経済」「文学・文化・思想」「法律・社会・メディア・情報」「言語」「日本語教育学」の分野から1つを解答時に選択して日本語または英語（「日本語教育学」のみ日本語）で解答させ、国際日本研究を遂行しうる専門的能力を判定する。口述試験は、研究計画や社会人として得られた問題意識、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。</p>
博士後期課程	求める人材		<p>国際的・比較的な視野のもとに日本の文化・社会について研究し、その成果をもとに、日本や東アジアを中心に世界が抱えるさまざまな問題に主体的に取り組んでいく意欲をもつ学生および社会人。後期課程ではこのような問題に対して研究者としてあるいは高度な研究能力を持つ職業人として、正面から取り込む意欲を持つ学生や社会人を広く求める。また、日本語教育に関して国際的な研究・教育領域を掘り下げて研究し、また日本語教育に関する専門的な学識を世界に向けて発信する意欲を持つ学生および社会人。後期課程ではこのような問題に対して研究者としてあるいは高度な研究能力を持つ職業人として、正面から取り込む意欲を持つ学生や社会人を広く求める。</p>
	入学者選抜方針		<p>入学者の選抜にあたっては、一般入試、推薦入試、指定校推薦入試、社会人特別選抜などの入学者選抜方式によって多様な入学志願者に対応するとともに、募集人員を分割し、同一年度に複数回の入学試験を実施する。</p> <p>・一般入試では、専門科目の筆記試験、及び口述試験を実施し、総合的に判定する。専門科目は、国際日本研究に関係する「政治」「経済」「文学・文化・思想」「法律・社会・メディア・情報」「言語」「日本語教育学」の分野から1つを解答時に選択して日本語または英語（「日本語教育学」のみ日本語）で解答させ、博士後期課程において高度な国際日本研究を遂行しうる専門的能力、研究しようとしている分野の専門的知識を判定する。専門科目は、博士論文を執筆する言語で解答させるので、解答における語学力、及び修士論文や研究計画書等の書類の語学力で判定するため、外国語の筆記試験は行わない。口述試験は、研究計画書等を参考とし、学修成果や思考力、語学力、研究に対する情熱・意欲、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力も判定する。</p> <p>・推薦入試では、小論文の筆記試験、及び口述試験を実施する。推薦入試は、研究者として大学等研究機関に就職することを目指す修士の学位を取得した、あるいは取得予定の学生、もしくは海外の大学教員や高度職業人</p>

			<p>を対象とする。受験者は、修士の学位を取得しているか、取得予定であるため、専門科目の試験に代えて、小論文により、専門分野に関する知識、理解力、論理的思考能力等、博士後期課程において高度な国際日本研究を遂行しうる専門的能力を判定する。口述試験は、研究計画書等を参考とし、国際日本研究に正面から取り組む意欲、研究計画、本学位プログラムを志望する理由、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。</p> <p>・指定校推薦入試では、口述試験を実施する。指定校推薦入試は、海外協定校(高麗大学校中日語日文学科、韓国外国語大学校日本語大学、仁荷大学校文科大学日本語文化学科、釜山大学校人文大学日本語日文学科、政治大学日本語文学系、輔仁大学日本語文学系、東呉大学日本語文学系、ベトナム教育訓練省ホーチミン市師範大学日本語学部)において志願者の諸能力や性格、資質などを知悉する教員等から、高度な国際日本研究を遂行しうる専門的能力をすでに身に付けているとして推薦された者を対象としている。このため、専門科目や外国語の筆記試験は行わず、口述試験により、国際日本研究に正面から取り組む意欲、研究計画、協定校における学修や本学位プログラムを志望する理由、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。</p> <p>・社会人特別選抜では、専門科目の筆記試験及び口述試験を実施する。社会人特別選抜は、社会人としての経験を有している者を対象としている。専門科目は、国際日本研究に関係する「政治」「経済」「文学・文化・思想」「法律・社会・メディア・情報」「言語」「日本語教育学」の分野から1つを解答時に選択して日本語または英語(「日本語教育学」のみ日本語)で解答させ、高度な国際日本研究を遂行しうる専門的能力を判定する。口述試験は、研究計画や社会人として得られた問題意識、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。</p>
--	--	--	---